

令和6年度夏期実習生受入研究室等一覧（横須賀）（2次募集）

研究室名	実習内容	実習期間	人数	受入対象
港湾施設研究室	<p><b>気候変動に伴う港湾施設への影響に関する研究</b></p> <p>(1)気候変動に伴う波浪増大に対する防波堤の設計結果への影響評価            ● 気候変動に伴い波浪が将来的に増大した場合を仮定し、その防波堤の設計結果への影響を把握するとともに、新しい設計手法を適用した場合の防波堤断面に対する影響検討を行う。</p> <p>(2)各種リスク評価における信頼性解析手法または機械学習に関する検討            ● 地震や高潮に対する構造物の被災リスクを検討するための効率的な信頼性解析手法、またはデータを活用した機械学習に関する基礎的検討を行う。</p> <p>実習内容は、上記2項目のうちいずれかの項目を想定しているが、本人の希望を踏まえて最終的に決定する。</p>	9/2～9/27 (最低2週間から受入が可能)	1名	大学
海洋環境・危機管理研究室	<p><b>沿岸域の環境改善や自然再生についての調査研究</b></p> <p>(1)港の中の生物の生育環境            ● 港湾構造物(防波堤や護岸、消波ブロックなど)を生物の生育基盤として有効に活用している事例を学ぶ。</p> <p>(2)内湾に生息する生物            ● 東京湾等の生物標本を分析してデータを整理・把握し、内湾の生物多様性について学ぶ。</p> <p>(3)港における地球温暖化緩和策            ● ブルーカーボン等の港における地球温暖化緩和策および浚渫土砂の有効利用の事例について学ぶ。</p> <p>上記3項目のうち1項目を想定しているが、本人の希望および当研究室の受入時状況を踏まえ、当研究室の研究テーマから実習項目を最終的に決定する。</p>	9/2～9/27 (最低2週間から受入が可能)	1名	大学または高専
港湾・沿岸防災研究室	<p><b>港湾における防災対策や気候変動の影響評価についての調査研究</b></p> <p>(1)気候変動に伴う高潮・波浪の将来変化            ● 現在・将来の気候条件における高潮・波浪の計算結果を用いて、港湾における気候変動に伴う高潮・波浪の将来変化を評価する。</p> <p>(2)港湾施設の津波被害評価            ● 東北地方太平洋沖地震津波による港湾施設の津波被害実績データを用いて、津波高等に応じた被害確率を評価する関数(フラジリティ曲線)を算定する。</p> <p>(3)コンテナの耐風対策・漂流対策            ● コンテナを対象とした模型実験の結果を用いて、港湾用地に置かれたコンテナの耐風対策等を検討する。            ● コンテナを対象とした模型実験の結果を用いて、コンテナが海域に流失することを防止する漂流対策等を検討する。</p> <p>上記3項目のうち1～2項目を想定しているが、本人の希望を踏まえ、当研究室の研究テーマから実習項目を最終的に決定する。</p>	9/2～9/30 (最低2週間から受入が可能)	1名	大学または高専
空港施設研究室	<p><b>①空港のアスファルト舗装工事における舗装表面温度を解析する</b></p> <p>・時間の制約が厳しい空港の夜間工事では、航空機の運航が再開される翌朝までに、舗装した舗装の表面温度を規定の温度まで下げておく必要がある。            ・実習では、規定の温度を変更することにより、表面温度が想定温度に低下するまでの時間がどの程度短くなるかについて、舗装温度解析プログラムを用いて解析する。</p> <p><b>②空洞を有する空港アスファルト舗装のFWDたわみを分析する</b></p> <p>・国総研の空港舗装試験フィールドにて作製した空洞を有するアスファルト舗装において、重錘落下式たわみ測定装置(FWD)による非破壊調査を行い、取得したたわみデータを分析する。</p> <p>上記2項目のうちいずれかの項目を想定しており、本人の希望を踏まえて決定する。</p>	9/9～9/27 (1～2週間程度の受入が可能)	1名	大学または高専
情報システム課 港湾施工システム・保全課	<p><b>サイバーポート(港湾インフラ分野)の検証と更なる可能性の研究</b></p> <p>● サイバーポート(港湾インフラ分野)は、港湾計画から維持管理までのインフラ情報を連携させ、国及び港湾管理者による適切なアセットマネジメント(適切な維持管理の実施、投資効果の計画策定)に資する情報プラットフォームであり、令和6年3月より重要港湾等125港を対象として稼働を開始している。GIS画面上で施設位置図、港湾計画図などの各種図面を重ねて表示し、施設の基本情報や維持管理情報を参照すること等が可能である。</p> <p>● 本実習では、サイバーポート政策やシステムの概要・構成を学習するとともに、実際にシステムを利用することで、その操作性や機能性について検証する。</p> <p>● システムの利用を通じて、具体的にどの様な活用が想定されるのか、またシステムの改良等による更なる可能性を模索する。</p>	9/2～9/20 (1週間程度の受入が可能)	1名	大学または高専
積算支援業務課	<p><b>港湾請負工事積算基準にかかる施工実態調査票の整理、解析</b></p> <p>国土交通省の出先機関等が発注する港湾工事の工事費を積算するための基礎資料として港湾請負工事積算基準が制定されており、現場実態を踏まえて積算基準に掲載されている各施工歩掛の改定にかかる検討を毎年行っている。            本実習では、工事等の受注者より回収した施工実態調査票を整理、解析し、積算基準と施工実態と乖離について検証する。</p>	9/2～9/20 (1週間程度の受入が可能)	1名	大学または高専